

## 平成 21 年度秋 ネットワークスペシャリスト試験分析速報

2009,10,19 (株) アイテック 情報技術教育研究部

### 1. 試験全体講評

第 1 回ネットワークスペシャリスト試験の応募者数は 25,161 名で、昨年のテクニカルエンジニア（ネットワーク）試験の応募者数（24,182 名）に比べると、4.0%増加しました。経済不況の中にあつて、プロフェッショナル試験に位置付けられているネットワークスペシャリストの資格を取得し、優位な立場を築いておきたいという意識の表れだと思われます。

午前試験は、午前 I（共通知識）、午前 II（専門知識）の二つの試験が行われました。午前 I 試験の出題範囲は、平成 21 年度春期試験と大きな変化はありませんでしたが、午前 II 試験の出題範囲は春期に比較すると、重点分野に位置付けられている範囲（ネットワークとセキュリティ分野）からの出題数が大幅に増加し、その出題数は 21 問に達しました。なお、問題の難易度は、ほとんどがレベル 3 程度ですから、合格基準点の 60%以上をクリアすることは、比較的やさしいといえます。逆に、午前 I 試験の合格基準点をクリアするほうが難しいといえます。つまり、午前 I 試験をクリアできれば、午前 II 試験はほぼクリアできるようなレベルの問題であったと思われます。

午後 I 試験の出題テーマは、ネットワークの障害解決、メールシステムの移行、eラーニングシステムの増強というテーマでした。技術内容的には、問 1 は LAN スイッチ、問 2 はメール全般に関する技術知識、問 3 はサーバの負荷分散方法に関連するものです。難易度的には、問 1 がやや難、問 2、問 3 がともにやや易と想定されます。問 2、問 3 を選択した受験者は、比較的容易に合格基準点をクリアできるのではないのでしょうか。

午後 II 試験は、問 1 が無線 LAN システムの構築というテーマで、セキュリティ問題、無線 LAN のフレームに関する問題、IEEE 802.1X などに関する詳細な技術知識が要求されます。このため、難度は高いと想定されます。これに対し、問 2 はサーバの移設をテーマとし、VRRP と STP による LAN 構成など、幅広い観点からの出題となっています。問題文で記述された内容などを正確に把握し取り組んでいけば、問 1 よりも解答を作成しやすいと思われます。

### 2. 午前 I 試験（高度試験共通）の講評

新試験制度の高度区分試験では、従来の午前試験が、共通問題の午前 I（30 問）と試験区分ごとの専門分野の知識を問う午前 II（25 問）に分割されました。前回の春期試験では午前 I 問題はすべて、応用情報技術者試験の 80 問からの抜粋になっていましたが、今回の試験も同様でした。

出題内容に関して、前回試験では新傾向問題といえるものがほとんどありませんでしたが、今回は新傾向問題が増えており、次のようなものがあります。このため、難易度も全体に高くなったといえます。

問 3 連結リストに対する処理時間の挙動

- 問 9 Web アクセシビリティを配慮した画面設計
- 問 18 アードバリュー分析
- 問 21 ITIL のプロセス
- 問 22 システム監査人が行った監査業務の実施記録
- 問 23 ビジネスアーキテクチャを策定する場合の成果物
- 問 25 RFI の説明
- 問 27 ラディカルイノベーションの説明

### 3. 午前Ⅱ試験講評

25 問のうち、分野別の出題数は、「技術要素」から 21 問、「コンピュータシステム」から 2 問、「開発技術」から 2 問という比率でした。平成 21 年度春期試験の傾向と比較し、「技術要素」からの出題比率が多くなったことが特徴です。

#### (1) 技術要素

技術要素からの出題範囲は、ネットワーク、セキュリティの 2 分野です。分野別の出題数は、ネットワークが 16 問、セキュリティが 5 問でした。内容的には、HTTP の GET/POST メソッドや WebDAV などの新しい問題が比較的多く、過去問からの流用が少なかったことが特徴です。なお、比較的難度の高い問題は、問 5（トラフィック制御方式）だけであり、ネットワーク分野、セキュリティ分野とも全体的に標準レベルの問題が多かったように思います。

#### (2) コンピュータシステム

コンピュータ構成要素からシリアル ATA、システム構成要素からシンクライアントシステムがそれぞれ出題されていました。出題数は 2 問にとどまり、出題傾向としては望ましいといえます。なお、難度は標準レベルと考えられます。

#### (3) 開発技術

システム開発技術からブラックボックステストのテストデータの作成方法、ソフトウェア開発管理技術から特許権の問題が出題されていました。これまでのテクニカルエンジニア（ネットワーク）試験では、知的財産権の問題は出題対象ではなかったもので、新しい分野からの出題となりました。開発技術からの出題数も、コンピュータシステムと同様に 2 問でしたから、出題傾向としては望ましいといえます。

### 4. 午後Ⅰ講評

午後Ⅰ試験は 3 問の中から 2 問の選択になりました。このため、1 問当たりの設問数が基本的に増加しています。なお、今回のネットワークスペシャリスト試験における問題ごとの難易度を評価すると、問 1 がやや難、問 2 と問 3 が、ともにやや易という印象を受けます。合格基準点をクリアするには、問 2 と問 3 の選択者が、やや有利かと思われます。

### 問1 ネットワークの障害解決

VLAN, スパニングツリープロトコルなど L2SW が持つ機能を十分に把握していることが必要です。こうした基本知識をしっかりと身に付けていれば、記述式の設問には正答を導くことができると思われます。しかし、設問1の穴埋め問題は、詳細な技術知識を正確に記憶していることが要求され、難度が高いといえます。全体的に難易度を評価すると、やや難の問題であるといえます。

### 問2 メールシステムの移行

メールに関する設定方法が主な出題となっています。また、全体的な移行手順を整理しながら、解答を導いていくことができるかどうかポイントです。設問1の穴埋め問題は5問中、3問は正解できそうですから、難易度は標準レベルです。設問2は、表の「J社のメールサービスの主な設定項目(抜粋)」に基づいて考えれば、比較的やさしいといえます。設問3は、移行手順の内容を吟味しながら解答を作成すれば、比較的容易に解答を作成できると考えられます。全体的に難易度を評価すると、やや易の問題であるといえます。

### 問3 eラーニングシステムの増強

LBを使用した負荷分散、DNSサーバにおける設定内容、ping試験に関する問題などが出題されています。これらの技術内容は、過去問でも出題されています。問題の記述内容を十分に確認しながら、解答を作成していけば、比較的容易に正解を導くことができると考えられます。全体的に難易度を評価すると、やや易の問題であるといえます。

## 5. 午後Ⅱ講評

テクニカルエンジニア(ネットワーク)試験の午後Ⅱ試験と同様に、問題分量は約10ページであるほか、設問数がかかり設定されています。このため、合格基準点をクリアできるかどうかは、正解できる問題には確実に正解していくことが必要であると考えられます。なお、問1と問2を比較すると、問1では無線LAN全体の詳細技術が問われているので、問1のほうの難度が高いと思われます。また、これまでのテクニカルエンジニア(ネットワーク)試験では、無線LANに関する出題がそれほど多くなかったため、受験者の一部は、必然的に問2を選択せざるを得なかったものと考えられます。

### 問1 無線LANシステムの構築

無線LANシステムの構築というテーマですが、無線LANのセキュリティやフレームの送受信に関する問題、IEEE 802.1Xに関する詳細な技術知識が問われています。このため、問1の選択者は、無線LANに関する技術知識を持った受験者に限られると考えられます。しかし、こうした受験者を想定したとしても、全体的な難易度はやや難といえます。

## 問2 サーバの移設

本問はサーバの移設をテーマとしていますが，問1に比較すると，無線LANの詳細技術が要求されるわけではないので，比較的，取り組みやすいといえます。ただし，問題文に記述された内容を十分に理解しながら，解答を作成していくことが必要です。ネットワークスペシャリストの午後Ⅱ試験では，解答設問数が多いことが特徴の一つですから，取りこぼしをしないことが合格基準点をクリアできるかどうかのポイントになります。

以上

